

5月 23日「体細胞クローン家畜由来食品に関する説明会」アンケート集計表

出席人数: 108 有効回答: 77 回答率: 71%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

問2 本日の説明会の開催を、どのような方法で知りましたか。(複数回答)

	1 農林水産省のホームページ(報道発表資料)、配布物	2 厚生局・農政局のホームページ、配布物	3 農政事務所のホームページ、配布物	4 その他の行政機関のホームページ、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	30	17	3	2	2	1	25	4	0
ラジオ									
食品安全エクスプレス(農林水産省発行)(2)									
大阪府畜産からの参加案内									
農林水産省からのfaxにて									

問3 これまでに意見交換会等に参加されたことはありますか。(複数回答)

	1 厚生労働省・農林水産省が開催した意見交換会	2 食品安全委員会が開催した意見交換会	3 地方自治体が開催した意見交換会	4 企業、業界団体などが開催した意見交換会	5 消費者団体が開催した意見交換会	6 その他	7 初めて参加した	* 未記入
問3	34	19	9	5	8	0	30	3

問4-1 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問4-1	26	42	4	1	0	4

問4-2 提示したスライド資料の内容は分かりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-2	21	46	4	4	0	2

問4-3 説明者の説明内容は分かりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-3	24	41	5	4	0	3

問4-4 質問に対する行政からの説明は分かりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-4	11	34	12	8	1	11

問4-5 質疑の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 やや短かった	5 短かった	* 未記入
問4-5	4	8	44	9	1	11

問4－6 説明者の声はよく聞こえましたか。

	1 聴こえた	2 おおむね 聞こえた	3 あまり聞 こえなかつた	4 聴こえな かつた	* 未記入
問4－6	41	30	1	0	5

問5 説明会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね 評価する	3 どちらも ない	4 あまり評価 しない	5 評価しない	* 未記入
問5	34	34	5	1	0	3

問6 日頃からご关心の高いものについて、3つまでご回答ください。(複数回答)

	1 動物用医 薬品	2 残留農薬	3 食品添加 物	4 環境から の有害化学 物質(ドミカ ム、メル水 銀、ダイオキシ ン等)	5 天然毒素 (ふぐ毒、か び毒、貝毒 等)	6 加工中に 生成する有 害化学物質 (アクリルアミド、 トランス脂肪酸 等)	7 BSE(牛 海綿状脳 症)	8 鳥インフル エンザ	9 有害微生 物(病原性 大腸菌、サル モネラ菌、ノロ ウイルス等)	10 遺伝子組 換え食品	11 食品への 放射線照射	12 食品表示	13 トレーサ ビリティ	14 その他	15 未記入
問6	13	20	32	14	3	3	19	32	12	18	7	32	14	1	1

問7 本日の「体細胞クローン家畜由来食品に関する説明会」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入ください。

問7

- 東大の先生、畜産草地研究所研究員の発表内容について、重複している印象をうけた。内容を事前に検討するのが良いかも知れない。
今後の産業利用に対する見通しについても発表があれば良いと感じた。
- 学生時代に学んだ家畜人工授精他が基礎になり、今日説明された技術が確立されたことは、とても立派なことであると思います。イメージのみで安全性に不安を持つ方々が多いと思いますが、この様な説明会を行い理解を深めることが必要だと思います。日本の畜産の発展にも貢献するものと思います。
- 厚生労働省担当官は一般人にもよく理解できるよう、わかりやすく、丁寧な説明を明瞭な口調でなされました。大変すばらしいことです。
東大の先生の説明が最も聞きにくかった。内容が読み聞かせのようになっており、口調が単調であった。
- 質問者の質問の意味がわからないもののが多かった。
- 一般消費者への広報、グローバルなイベントの（環境G8）当日及び前後の開催は避けていただきたい。
- 説明後、すぐに世に出てこないでしょうか？
(遺伝子……もすぐ世に出てまいりましたので)
- クローン研究は、それなりに意義があると思いますが私自身クローン牛を食したいとは思いません。表示をしっかりお願ひします。
1. 国の担当官の皆様にはお疲れ様でした。
2. 内容もざることながら、どのようなトーンあるいは言い回してお答えするかなど、行政の真摯な態度によつた受ける印象が大きく違つてくるな～と会場から感じた次第です。
3. 丁寧にお答えなさっていると思いました。
4. ただ、個人的には「体細胞クローン牛」の説明だけ(又は大半)なのに、質問には「牛」のほかに「豚」も入っていましたので、バランス欠いていないかなあ～と思つもしました。(もつとも国内での知見も少ないと思うんですが…)
- 厚生労働省担当官の話はくどい。時間配分が悪い。
- 東京・大阪以外の地方でも開催して欲しい。
- なぜ米国の農務省はクローン牛の出荷を自粛しているのですか？米国からクローン牛、後代牛の精液はすでに輸入されているのですか？
- 死産等が多いことについて「技術的な問題」との回答であった。「安全」なのはよく理解できたが「安心」との理解は出来なかつたのが残念であった。
- クローン牛が生後まもない時期の死亡が多いのは何故なのかもと説明がほしかった。新しい技術であるために長期的スパンで安全性を確認することが必要であると考えます。
- 開始時間を1:30にしてほしい。
- 畜産草地研究所及び東大の先生の話が早くて少し分かりにくかった。もう少しスライドを工夫して欲しい。
- 階段が喫煙スペースになっている会場はどうなのか
- 説明会の出席者については、良い選択をされていたと思う。
- 分かり易い内容ですが、一般消費者の安心・安全との格差があり、今後のリスクコミュニケーションをよろしくお願ひします。
- 我が国の自給率が非常に低い状況で前向きな政策をどんどん取り入れる必要にある。一般人にもこの様に判りやすく関心を持つためにもこのような説明会今後も期待する。

不安があるのは死産の多いクローン牛には問題がかくされているのではという点です。 消費者にメリットが明らかで利用されるというより、外国の動きで諮問に至った点で、疑問や不安は残っています。
消費者が体細胞クローン牛が識別できるようにして判るなら、自分で選択したい。今はリスク評価の時点ではこれはまだだという点。畜産における体細胞クローンの家畜の改良の話が良かった。希少動物の話も。
科学的な評価と消費者の情緒的なギャップを痛感しました。この溝をうめるためにもくり返し説明会を続けてください。
今回の件は重要な内容であり定期的な説明会を実施してください。
食品を扱う者として、大変勉強になりました。安全面についての研究などは、もっともっと続けていいって欲しいと思います。
諮問段階での説明会開催により答申後の説明会の開催を希望します。
(人工授精にて)人間の赤ちゃんがちゃんと生まれている時代にどうして牛が完全な子牛が作れないかと思う。クローン技術を更に研究して頂き沢山いい牛肉を作つて頂きたいものと思います。今後食品としてどんどん研究して頂き良質の牛肉の開発される事を希望致します。クローン技術の更に研究発展される事を希望する。
BSE、肝炎、エイズ等に色々な問題が出ているが、結局のところ誰も責任をとらない。国民の税金で解決へと向かっている。その時その時に決定した役人がいるはずだから、公務員と言えども個人の責任を追及すべきだと考えます。どんな事態になっても(個人的に)責任をとる必要がないから無責任な決裁になっていると思う。
生後直死、死産が多いのも、気になるが、病死も多いのが気になる。体質的に、何か問題があるのか? ドナーから核を取り出して作出するのに、その時の年齢は関係ないのか?
今日説明内容は一般的にはわかる所もあればこれからクローン牛が消費者がどれだけ知る事が出来るか。
まだまだ死産、生後直後死亡、病死等異常が過半数みたいなので研究調査をお願いしたい。
クローン家畜による研究がよく分かり参考になりました。
3人の講師の方の特質が口調の解りやすい人とそうでない人があり、伝えるむづかしさを感じました。
とても勉強になりましたが、国民が何も知らないうちにクローン牛が市場に出るのかと思うと歴史がないだけに不安な気がする。もし市場に出るのなら、消費者が選べるように表示して欲しい。

(事務局から)

アンケートにご協力いただきありがとうございました。
今回いただいたご意見は、担当者に伝えるとともに、今後の意見交換会の運営に役立てて参りたいと思います。

(問い合わせ先)

農林水産省 消費・安全局 消費者情報官 リスクコミュニケーション推進班 担当:鈴木、日向
TEL. 03-3502-8111 (内線 4600) / FAX 03-5512-2293